

2020年6月20日

延安情報偵察訓練班

報告：齊藤泰治

- ▶第一次国共合作決裂後の国民党、共産党の特務機関設立
- ▶第二次国共合作後の情報偵察訓練班
- ➔中国国内における国民党と共産党の特務活動の一端を垣間見ることによって、情報偵察分野における当時の中国の複雑な状況を検討する

〔引用資料〕

- ①《情報 间谍 保卫 反特 中国秘密战》郝在今（八一電影制片廠文学部編集員）作家出版社 2005年
- ②『龍のかぎ爪 康生(上)』ジョン・バイロン（ジャーナリスト、外交官） ロバート・パック（ノンフィクション作家） 田畑暁生[訳]（岩波現代文庫 2011年）
- ③《中共情報組織與間諜活動》翁衍慶（前情報局情報幹部訓練班卒業 正声廣播股份公司董事長）新銳文創〔台湾〕 2018年
- ④百度百科(2020年2月)
- ⑤「軍統的特務訓練班」程一鳴（軍統特務訓練班教官、総教官、軍統局本部第三処処長、軍統局西北区區長、上海辦事処行動組長等を歴任¹⁾） 陳楚君、兪興茂 編『特工秘聞—軍統活動紀実』（中国文史出版社 1990年）所収

I. 前史…… 2度の国共合作と国民党、共産党の特務機関設置

1924年 第一次国共合作

1926～1928年 蔣介石北伐

1927年4月12日

¹ 1907-1986年。1926年中国共産党入党、1927年モスクワ共産主義労働大学留学、1930年帰国、1931年共産党離党、1933年国民党入党、特務機関員、1949年香港入り、国民党情報局澳門站少将站長、1964年大陸入り。④による

●中国国民党

四一二清党 「1927年4月12日、国民党は『中央政治会議』を召集、『清党』を決議、党内の共産党員を駆逐」
「当時、ソ共と中共に操られていた汪精衛左派国民党も、汪精衛覚醒後、7月15日、中央執行委員会を開催、『分共』を可決、中共と決裂」 ©p.26 北伐の途上、戴笠（1897-1946 黄埔軍官学校 6期生①）は蒋介石のために軍事情報を収集（『蒋介石與戴笠』 團結出版社、2009年 p.18）

1928年2月 国民党中央組織部に党務調査科（情報専門職）を設立、共産党員の捕殺 軍隊系列の参謀本部第二庁、軍事諜報、電信偵測 1930年夏、党務調査科内に「特務組」を増設、中共の活動に対応 ①p.2
軍隊系統：参謀本部第二庁（軍事諜報 電信偵察） 中共党員、秘密組織の摘発、中共組織に浸透 陳立夫主任兼任→張道藩→吳大鈞→葉秀峰→徐恩曾 ©p.32

●中国共産党

四一二クーデター「1927年、国共は分裂し、蒋介石は上海で『四一二事変』を発動、自衛意識の欠如した共産党員は虐殺に遭遇した合法的地位が非合法に変わり、中共中央機関は上海から武漢への移転を余儀なくされた 自己の安全を保衛するために、中共中央は、中央軍委（周恩来書記）の下に『特務工作処』を設立することを決定した」 ①p.1

任務：情報、保衛、鎮圧 ソ連極東赤軍総部〔澳斯托茲那雅特工学校①〕で特工を学んだ顧順章（1904-1935①）を責任者に 下に情報（政治、軍事情報収集）、保衛（中央機関及びソ連顧問団の安全を保衛）、特務（叛徒、内奸鎮圧）、匪運（地方の土匪武装勢力取り込み） ©p.27 汪精衛が武漢で分共、「特務工作処」は武漢から上海に移り、1927年8月に活動終結 ①p.2

顧順章 青幫出身 上海・南洋兄弟菸草公司工頭 1925年5月30日、五三〇事件で積極的に活動 1925年、陳賡（1903-1961 黄埔軍校1期生①）、陸留とともに中共からウラジオストクに派遣され特務技能訓練を受ける ©p.29

1927年11月 周恩来が提唱、中央特科設立

一科 総務 洪揚生

二科 敵の偵察機関に潜入、情報獲得 陳賡

三科 「紅隊」（打狗隊） 叛徒、内奸を懲罰 蔡飛 譚忠余

四科 無線電台 無線通信 李強 陳寿昌 ①p.6

1928年 中共中央、無線通信設置

周恩来、武漢で訓練班を開設 特科人員を20日余で養成

中央ソビエト地区が国家保衛局を創立した際の幹部は訓練班出身者だった

西北保衛局改組以降、周興局長も訓練班を主催 ①p.66

上海に無線電訓練班（上海国際無線電管理局所属）＝どちらも国民党情報機関 局長：徐恩曾（1896-1985①） ©p.32

中共地下党員錢壯飛（1895-1935① 1925年中共党入党）が徐恩曾の秘書となる 周恩来、錢に対し、李克農、胡底と特別グループを編成して、李克農がグループ長として中央特科との連絡に当たるよう指示 電報は徐自ら解読しなければならず、暗号表も徐が管理していたが、徐が上海に行っている間に李克農が盗み出し、錢に渡した ©p.32 1931年4月、顧順章は張国燾らをソビエト地区に送り届けるよう命じられた 任務達成後、武漢で中央調査科人員に発見され、4月24日〔国民党武漢警察局局長・蔡孟堅により①〕秘密裡に逮捕される 顧は、中共中央指導機関、指導者〔向忠發、周恩来、瞿秋白①〕の上海における秘密住所、コミンテルン極東情報局、

上海駐在ソビエト極東赤軍情報部人員の氏名、住所、中央調査科に潜入した中央特科のスパイリストを提供する用意があるが、蔣介石に直接面会させること、中共が察知するといけないので、自分が逮捕されたことを電報で南京に伝えないよう要求した ©p.33 しかし、4月25日、中央調査部武漢支部は顧の警告を無視し、6通連続で徐恩曾に打電した 錢壯飛は電報から顧が逮捕されたことを知り、陳賡に知らせた 情報は周恩来に伝わり、中共は急遽対応策を取った ①p.9

◆顧順章『特務工作之理論與實際』

「台湾華文電子図書」より

第一章 緒論 第一節 特務工作の性質 一、特務工作とは何か 二、特務工作の使命

三、特務工作と一般の工作の区別 四、特務工作と政治の連係

第二節 一、国内情勢について 二、国際情勢について 三、中国特務工作の過去、現在、未来

第三節 特務工作の範囲 一、偵察 二、反偵察 三、情報 四、交通 五、破壊 六、保護

第二章 特務組織 第一節 組織原則 第二節 偵察網 第三節 交通網 第四節 人材選択 第五節 規律

第六節 待遇 第七節 訓練

第三章 第一節 工作の原則 一、積極性 二、秘密性 三、敏捷性 四、精密性 五、普遍性 六、実際性

第二節 工作上絶対反対の事項 第三節 工作の実施

第三節 工作の実施

第四章 特務観念 第一節 観念問題の重要性 第二節 観念闘争 第三節 特務人員の人生観

第五章 秘密 第一節 秘密の意義 一、秘密とは何か 二、特務工作はなぜ秘密でなければならないか 三、

どうすれば秘密にできるのか 第二節 秘密機関 一、秘密機関の重要性 二、機関の設置 三、機関の配置 四、

機関の運用 第三節 秘密連絡 一、連絡工作の分類 二、連絡人員の要件 三、連絡伝達の方法 四、秘密連絡

がなすべき配備 五、連絡人員が注意すべき事項 第四節 一般的秘密 一、日常生活 二、行動 三、言語

四、服装 五、文字

第六章 特殊技術 第一節 変装術 一、服装の変装 二、容貌の変装 三、言語の変装 四、身分の変装 第二節

尾行術 一、尾行の意義と価値 二、尾行組織 三、尾行前準備 四、尾行時に注意すべき事項 五、様々な異なる環境での対応 第三節 反探偵 一、反探偵の意義及びその作用 二、敵探及び敵の反探偵をどのように

に判別するか 三、敵の反探偵をいかに利用し、わが方の反探偵をどのように運用するか 四、反探偵工作実施

の際に注意すべき事項 五、反探偵工作担当者が備えるべき特殊条件 第四節 特務が用いるべき武器 一、特務人員はなぜ武器を理解していなければならないのか 二、特務工作に適用する武器 三、拳銃の研究 1.拳銃

の保護、格納法 2.分解、装填、弾入れ法 3.拳銃の運用 4.拳銃の重要部分、なぜ拳銃の特性を理解しなければならないのか 5.拳銃の危険性と注意点 6.弾の込め方 7.拳銃の良し悪しの判別法 8.拳銃が効力を発揮する

距離 9.拳銃の口径 四、ガス銃の研究 1.種類と様式 2.構造と用法 3.効力と作用 4.毒ガス銃使用時のいくつかの注意点 五、爆弾 第五節 破壊術 一、特務工作における破壊術の意義 二、破壊の種類 三、破壊の

技術 四、破壊の組織 第六節 談話術 一、特務工作における談話術の作用 二、一般人に対する対応及び談話術 三、政治犯、容疑者に対する談話法 四、不審者に対する談話法 五、工作の同志に対する談話法 第七節

暗号、合言葉術 一、特務の隠語 二、手振り 三、アルファベット、電報コードの活用 第八節 観察技能 一、特務工作における観察技能の作用 二、注意点 三、外見の観察 四、思想の観察 五、能力の観察 第九節

形相術 一、なぜ形相術を研究するのか 二、体質上からの研究 三、五官における研究 四、行動上からの研究 五、社会生活から研究 第十節 催眠術 一、催眠術の原理 二、催眠術の条件 三、催眠術の効果 四、催眠術の施術法 五、催眠術と体質との関係 六、特務工作における催眠術の作用 七、催眠術と道徳問題

第十一節 撮影術 一、撮影と特務の関係 二、撮影設備 三、撮影と制像 四、移動物体の撮影法

第七章 特務常識 第一節 社会化問題 一. 社会化の意義と価値 二. 社会化と特務工作の關係 三. いか
社会化するか 四. 社会化と秘密工作 第二節 C.P.特務工作 一. C.P.特務工作の史的発展 二. C.P.特務工
作の任務と使命 三. C.P.特務工作の組織 四. C.P.特務工作の戦略 五. C.P.特務工作の精神 六. C.P.特務
工作の現況 七. C.P.特務工作はどんな工作をするのか 八. C.P.特務工作の方法 九. C.P.特務工作の数年来
に発見した不良成分 第三節 ソ連の特務工作 一. カーゲーベールの起源 二. カーゲーベールの組織と系統 三.
カーゲーベールの工作方法 第四節 下層社会の研究 一. 下層社会にはどのような組織があるのか、なぜ研究が
必要なのか 二. 青紅幫の研究 三. 九流二流の研究

第八章 特務人員の修養の問題 第一節 工作の精神 一. 自己の工作の目的を明確に 二. 積極と自動の精神
三. 責任を負う 四. 自検、自勉、自己批判 五. 指導を受け入れる 六. 処置工作時の注意事項 第二節 身
心の鍛錬 一. 酒色、金運の認識 二. 健康と工作の研究 三. 個性と工作の關係 四. 大胆と細心 五. 各種
能力の鍛錬

▶顧順章反変後、中統、軍統は特務訓練班を組織、顧順章が講義 散木「“特務大師”顧順章的三本書」『同舟共進』
2008年第8期

▶1940年 中央陸軍軍官学校特別訓練班が顧順章『特務工作之理論與實際』を編印

中央陸軍軍官学校 1927年11月～1949年10月 南京国民政府

黄埔軍官学校 1924年6月 広州・黄埔 →1937年 成都 →1949年 台湾・高雄

◆顧順章『特務工作之理論與實際』

C.P.特務工作の史的発展

「中国特務工作の起源はC.P.にある……」「C.P.特務工作の起源はそれほど以前ではなく、1927年の冬、国共が
分離し、C.P.は広東の海陸豊暴動失敗後、上海に潜集し、巻き返しをはかってはじめて特務工作が生まれた。」

「1928年すなわち民国17年正月になって、彼らは自分たちが置かれている環境がきわめて危険で劣悪だと感じ
たので、敵の進攻を防ぎ自己の安全をはかるために、ソ連のKGB組織に倣って正式に特務工作を確立せざるを
得なかった。」「元々は一科を設立しただけだったが、6か月後二科、三科を相次いで設立、さらに6か月後、四
科も引き続き成立した。3年ばかりの間に驚くべき発展と類稀な成果を上げ、われわれは客観的立場から彼らの
奮闘精神に敬服せざるを得ない。」p.186

●国民党

1931年 中華民族復興社（藍衣社）の秘密核心組織「力行社」下に特務処（情報・暗殺活動）

1932年 党務調査科を「特工總部」に拡充

1935年 党務調査処に改組

1936年12月 西安事件

1937年2月 国民党中央軍、西安入り

1937年4月 党務調査処（徐恩曾）と力行社（戴笠）が合併、国民政府軍事委員会調査統計局（陳立夫局長）

調査処→一処 力行社→二処

1937年10月 第二次国共合作

1938年4月 蔣介石、国民政府軍事委員会調査統計局を2つの局に

一処……国民党中央執行委員会調査統計局（朱家驊局長 徐恩曾副局長）→中統

二処……国民政府軍事委員会調査統計局（陳立夫局長 戴笠副局長）→軍統

●共産党

1931年 国家政治保衛局設立

1931年4月 顧順章、逮捕される

1934年1月 国家政治保衛局、軍に随って長征、1935年11月、西北保衛局（中央特科と国家保衛局は停止）
㊤p.54

1935年11月 邱吉夫逮捕、上海特科活動停止 ㊤p.10

1936年12月 西安事件

1937年1月 中共中央、延安入り

1937年10月 第二次国共合作

1937年12月 中央特別工作委員会（対外的には敵区工作委員会）

周恩来主任、張浩副主任 まもなく康生主任、潘漢年副主任

1938年春 中央特別委員会下に戦区部（杜理卿）、都市部（潘漢年）、幹部部（陳剛）

1938年 中央保衛部（杜理卿）

1938年6月 七里鋪訓練班 ㊤p.54

◆顧順章『特務工作之理論與實際』より

第7節 訓練

一. 訓練を受けるものをいかに選択するか

1. 頭脳が明晰かどうか、および他の政治的背景がないかどうか、思想が曖昧だったり、他の政治的關係があったりすれば、採用しない。

2. 家庭状況と社会経験に注意し、出身と行動を考察、官僚（原文は宦官）、富家の子弟であれば、忍耐力がなく、苦しさに耐えられないので、特務工作の任に堪えられず、原則的に〔採用〕できない。過去の行動が卑劣で忠実さに欠ける性格があれば、採用しないほうがよい。

3. 血気、勇氣、氣迫があるかどうかに注意する。感覚が鈍ければ採用しない。

4. 知恵と体がどうであるかに注意する。愚かだったり病弱であったりすれば、採用しない。

5. 秘密を守れるかどうかに注意する。不注意だったり、自分勝手だったりすれば、採用しない。

二. 選択後、いかに訓練を行うか

1. 訓練班の設立と訓練の要点

a.政治的立場がしっかりしており、特務工作を深く研究しており、豊富な経験をもつ者が訓練の責任を負う。

b.訓練班の設立は秘密にし、しつらえは一般的にして、補習学校、準備所のような様式にする。それぞれの場所に合わせるが、発覚しにくくするのが条件である。

c.訓練班は何カ所かに分け、各箇所は20名を超えないようにし、互いに往来させず、互いに付き合いが深くなって情報を漏洩するのを防ぐ。

d.訓練所の所在地、建物は孤立させず、一つの屋敷〔院落〕の中に設け、動静が外に伝わらないようにする。

e.設備は十分に整っていないと不行き届き。訓練を受ける者の日用必需品、実習用品（各種武器、秘密通信、撮影、化学等の用品）は十分に揃っていないと不行き届き。

f.訓練を受ける者自身の生活および家庭生活〔上の問題〕は解決し、学習に専念できるようにする。

g.訓練に用いる材料は特務工作に適合したものでなければならず、実習に注意しなければならない。

- h.訓練の方法は啓発式、討論式を重んじ、機械的詰め込み式は避ける。空論を避け、実際問題を重んじる。
- i.討論会、批評会をしばしば行い、公開の弁論、相互批判によって思想上、見解上、工作処理方法において同一の結論をもたなければならない。
- j.個別談話を重んじる。個別談話によって一人の人間の個性がわかり、それにもとづいて個別訓練を行う。
- k.自己批判の精神を啓発し、日々自らの一切を反省、過ちがあれば改め、なければ自ら励みとするようにさせる。
- l.レベルによって高、中、初3クラスに分けて訓練する。
- m.訓練期間中、訓練を受ける者に外部との接触を避けさせ、秘密の漏洩を防ぎ、学習に専念させる

2. 平時の訓練

- a.配属後、実地で働く者を交互に呼び戻し、指導し、訓練を行う。
- b.特務人員の訓練は、訓練班の中に限定せず、平時いかなる時でも各種の実際問題にもとづきたえず引き続き指導を行う。
- c.特務人員の日常生活に注意し、思想と行動に腐敗、不良傾向がないかどうかを考察し、もしあれば是正する。
- d.特務人員が工作を処理する方法に誤りがないかどうか、たえず注意し、もしあれば是正する。
- e.遠い場合は秘密通信、近ければ個別談話の方法で、工作人員の疑問を解決したり、その誤りを正したりする。

II. 軍統訓練班について（国民党）

◆軍統〔軍事委員会調査統計局〕特訓班 1938年設立 対外的には「特警班」

陵訓班(湖南醴陵) 黔訓班(貴州黔陽) 息訓班(貴州息烽) 渝訓班(四川重慶)

蘭訓班(甘肅蘭州) 東南特訓班(福建建瓯) 卒業生は1.5万人～3万人④p.166

軍統の漢中特訓班を指導したのは程慕頤の西北特偵站 1939年、陝西漢中で設立、1942年、西安に移り、西安特偵班 戴笠が班主任を兼務 各期30人 ④p.167

◆戦時遊撃戦術幹部訓練班 漢中館子街18号

5:30 起床、昇旗 夜10:00 降旗、就寝 午前、午後、4時間ずつ授業 夜、補習授業

個人の時間なし 食事時に儀礼 5分で食事 笛で停止 15分ジョギング トイレ5分、その後、授業 食事は一日3回 毎回儀礼 ④p.173

課程：総理遺教 総裁言行 国際政治 中共問題 西北民情 群衆心理学 政治社会過程 政治偵察 交通学 射撃学 爆破学 通信学 兵器学 薬物学 擒拿術 変装術 「海底」〔個人ID〕知識等特務専門技能 「密写」〔あぶり出し〕を書くときは米のとぎ汁、ミョウバン、唾液、のり 字を出すときはヨードチンキ、あぶり 密電には電報略号と電報用暗号を用いる 「隠身法」 「先横後直」 「先直後横」 ④p.173

◆軍統特務訓練班の公開名義 程一鳴「軍統的特務訓練班」

「参謀本部諜報参謀訓練班 軍事委員会特別訓練班 中央軍官学校特別訓練班 中央警官学校特別警官訓練班 杭州警官学校特別警官訓練班 軍事委員会外事訓練班 財政部緝私人員訓練班 財政部貨運局訓練班」④p.134

「學員は班に入る前に、詳細な履歴書、學歷証明、写真を提出し、体格検査、家族調査の審査を経て、語文、数、理、化の口頭・筆記試験を受け、思想の純正さ、中国共産党および国民党以外の党派に加入していないことを証明する保証書、保証人を立てる。班に入ると、訓練総時間は半年、必要に応じて延長する。」④p.135

「訓練班の前期3ヵ月の入隊訓練は、中央軍校の教育規定にもとづいて行われる。歩兵操典、典範令、大軍総帥、参謀作業、野外演習、各種拳銃射撃。政治訓練は、国父遺教、領袖言行、反共抗露論、政戦総論、中国近代史、

中共問題である。」⑤p.135

「後期の技術訓練課目はすべて特務技術で、情報学、諜報学、内勤業務、秘密通信、暗号研究、爆破学、毒薬学、擒拿術、刑事偵察学、写真術、無線電学、無線電機工務・報務実習、郵電検査術、外国語文（英語、ロシア語）がある。以上の課目は総教官、主任教官、教官、特約教官が担当する。」⑤p.135

「一部の特務訓練班は、情報系、行動系、電信系、警政系、外語系に分かれていた。」⑤p.135

「特務理論の基礎は『孫子兵法・用間篇』で、方法は民間秘密結社のやり方、アメリカ中央情報局の科学技術、共産党地下活動の方法などを採り入れた。特務処は王新衡、傅勝藍が共訳したソ連の『Cheka GPU』（肅反非常委員会・ソ連政治保安局）、反徒顧順章口述、臧公惠整理・記録『特務工作的理論與實際』、鄭介民著『軍事諜報』、程一鳴著『情報学』『内勤業務』を特務訓練班の参考教材とした。」⑤pp.135-136

◆各種特務訓練班

「一、参謀本部乙種諜報参謀訓練班 1935年成立、3期行われ、南京慧園街に設置された。學員は国防部隊、綏靖部隊、要塞諜報参謀から来た者、保定軍校、雲南講武堂、黄埔軍官学校、日本の士官学校、アメリカの West Point Academy 等、国内外の軍官学校卒業生がいた。毎期6か月訓練を行い、卒業後は元の部隊に復歸した。中華復興社あるいは同特務処で特務となった者もいる。」⑤p.136

「二、中央軍校特別訓練班 1936年4月設立、同年10月卒業、1期のみだった。所在地は江西省星子県廬山軍官訓練団の龍雲寺、學員は杭州警官学校卒業生および特務処の現職特務、卒業後は特務処特務となった。」⑤p.136

「三、軍事委員会特別訓練班 1938年設立、10月卒業、所在地は湖南省臨澧県、1期のみ。卒業後は淪陷区、蔣管区で特務となった。」⑤p.136

「四、軍統局黔陽訓練班 1938年12月設立、1939年11月卒業、1期のみ。所在地は湖南省黔陽県。この班で訓練を受けた者は遊撃、情報、行動、会計、電信、密輸監視の6大隊に分かれ、卒業後は淪陷区、蔣管区で特務となった。」⑤p.136

「五、中央警官学校特種警官訓練班 1939年設立、5期行われ、1946年終了。所在地は甘肅省蘭州市黄河鉄橋付近の木塔寺。」⑤p.136

「六、軍統局息烽特訓班は1940年1月設立、所在地は貴州省息烽県県城。」⑤pp.136-137

「七、外事訓練班 軍統局外事訓練班は1939年成立、所在地は四川省重慶市。」⑤p.137

「八、監察訓練班 軍統局監察人員訓練班は1941年設立、重慶市、學員60名。」⑤p.137

「軍統局とアメリカ特務合作訓練班 一、南岳中米訓練班 1943年10月設立、湖南衡山。二、雄山中米訓練班 1943年5月設立、安徽省歙県雄村。軍統局中米訓練班は他に、息烽中米訓練班、建甌中米訓練班、漳州中米訓練班、華安中米訓練班、麗水中米訓練班、重慶中米訓練班、西安中米訓練班、陝壩中米訓練班。」⑤p.137

III. 中央社会部（共産党）

1939.1 国民党「防制異党活動辦法」 「容〔→溶〕共、防共、限共、反共」③p.46

「1月30日、国民党5期5中全会閉幕」 「党務報告決議案を秘密裡に可決、国共両党の關係において『溶共、防共、限共』の基本方針を確定」 韓信夫 姜克夫 主编《中华民国大事记》第八卷(1937-1939) 中华书局 2011年 p.5993

1939.2.18 中共中央書記処「關於成立社会部的決定」 日寇、漢奸、頑固分子の潜入、破壊活動から党組織を守る④p.54, ③p.46

中央特別工作委員会(1937.12 設立)、中央敵区工作委員会〔対外的名称〕④p.54→中央社会部③p.46

1939.2.28 中央社会部成立 「全党各根拠地と敵区の保衛工作、情報工作指導」④p.54 部長：康生(1898-1975)

⑤) 第一部(偵察)部長：許建国(1903-1977⑤) 第二部(情報)部長：潘漢年(1906-1977⑤) 孔原(1906-1990⑤) 曾希聖(1904-1968⑤)④p.54 部長：康生 副部長：潘漢年 葉劍英(1897-1986⑤) 孔原〔後に李克農(1899-1962⑤)〕 ④p.47

▶「1938年8月の公安組織の大改革で、康生は延安で最も強力な、そして後ろ暗い部分のある2つの組織の長に任命された。軍の諜報を統括する軍事委員会情報部門と、一見無害の場所に聞こえるが公安的な仕事、スパイに関する仕事を請け負っている社会保衛部門(一般には中央社会部と称する)の2つである。」(⑤p.179)

「中国共産党は、本部を延安に置くとほどなく、当時違った形態で存在していた3つの公安情報組織を統合するという考えで、新しく中央社会部を創設した(1939年10月)。」⑤p.187

▶3つの公安情報組織を統合

- ・「上海を拠点とした特別工作委員会に相当する都市秘密警察」(部局内部の最大組織)
- ・「共産党支配地域の小さな町村で活動する政治保衛局」(準軍事組織 土地改革促進、地主の消滅) 1930年代初期、江西省内共産党根拠地で設立)
- ・「延安付近の辺区で日常の警察活動から反逆者やスパイの逮捕にまで責任を負う独自の地方公安組織『保衛処』(延安警衛団と連係)⑤p.188

◆中央社会部の任務

1. 漢奸、敵のスパイと系統的に闘い、彼らの党内部への混入を防ぎ、党の政治、軍事の執行と組織の強化を保証する
2. 同志とシンパを計画的に派遣、敵内部に潜入させ、敵の内部に入りうるすべての機会を利用し、利用できるすべての敵方の人間を利用して、敵内部の工作の強化から自己保衛を達成する
3. 敵のスパイ、漢奸、敵の内通者の活動の具体的資料と事実を収集し、同志を教育し、同志の警戒性を高める
4. 機密部門の工作を管理し、保密工作の執行を保障する
5. 以上のような工作を行うことができる幹部を経常的に選択、教育する④p.54〔《中国人民公安史稿》(警官教育出版社)からの引用を再引用] ④pp.46-47

▶中央社会部は康生の指揮によって「ソ連の秘密警察組織を範とするような、最も厳しい組織に改変されていく。KGBの前身 OGPU(国家政治保衛局)や NKVD(内務人民委員会)のように」、「反逆者やスパイを捕まえる部署と、敵(外部敵と内部敵)の情報をさぐる部署の、2つから成り立っていた。この部署の権限は、外国人をスパイすることから、外国のためまたは共産政権破壊のためのスパイ行為を疑われた者を捜査・逮捕することまでを含んでいた。」

「その機能は4つの主要な部局の名前に反映している。軍事安全部、政治安全部、経済安全部、国際情報部の4つである。」⑤pp.188-189

なお、康生は1933.7-1937.11、モスクワ滞在

中社部=陝甘寧辺区政府保安処〔2つの看板だが1つの機構 中共各根拠地と白区の情報、保衛工作进行を指導〕④p.47

中社部総部 棗園西村 延安の西北8キロ もともとは地主の荘園 中社部進駐後、「延園」に改名 コミンテルン極東情報局延安駐在連絡小組もここに設置④p.47

1939年はじめ、康生は中央社会部本部を楊家嶺の洞窟から棗園に移した(事務所、吏員住居だけでなく、監獄も

移動)ⓑp.191

組織 一局 組織、人事

二局 情報

三局 反間

四局 情報分析

五局 特工訓練

直属機関 保衛部 執行部ⓒp.47

IV. 延安特務訓練機構

◎ 3つの訓練班 中社部棗園訓練班、七里鋪訓練班、三十里鋪訓練班Ⓐp.69

1. 棗園訓練班(羅青長、謝富治 1909-1972ⓓは卒業生)、陝北公学²、西北公学³……特務養成、幹部肅反 卒業後はほとんど被占領地区、国統区で秘密活動に従事ⓒp.47

中共中央社会部情報訓練班 = 棗園訓練班

一期 李士英(1912-2001ⓓ) 周興(1905-1975ⓓ)

二期 羅青長(1918-2014ⓓ) 1938年7月、中央党校卒業後、直ちに中社部訓練班に参加、訓練班卒業後、中社部秘密幹部となる 表向きは八路軍西安辦事処主任林伯渠の機密秘書 辦事処内部と西安地下情報系統を指揮 Ⓐpp.66-67

三期 王炎堂(1923-2008 中社部情報人員訓練班で2か月学ぶⓓ)

四期 陳龍(1910-1958 東北抗日民主聯軍から参加 のちに延安で有名な偵察専門家となるⓓ)

七期 汪東興(1916-2015ⓓ) 凌雲(1917-2018ⓓ)

八期 王鑑(1917-2018ⓓ) 最後の期は1941年に終了Ⓐp.68

2. 陝甘寧辺区政府保安処は、七里鋪(延安の南7里=3.5キロ)に情報偵察幹部訓練班〔主として知的レベルの高い者を養成対象とし、養成後は敵区(国統区、日本軍占領区)で特務要員となる〕を設立 全8期 中共は「黄埔軍校」と呼んだⓒpp.47-48

●七里鋪(1938.6～) 第一期情報偵察訓練班を開設、その後、連続7期Ⓐp.68 「黄埔」と呼ばれたが、訓練班は七里鋪だけでなく、上には中社部の棗園訓練班、横には辺保〔陝甘寧辺区政府保安処〕の三十里鋪訓練班があったⒶp.69

1938.6 36名の学生 3つの洞窟〔ヤオトン〕 1班1穴 8名〔一説に6名〕の女子は別棟の平屋Ⓐp.69

24時間寝食を共にし、外部との連絡を絶ち、互いに相手の素性を尋ねず、自分の身分を明らかにしないよう告げられていたⒶp.69

指導者：布魯(1909-1972 = 陳泊 辺区保衛部部长ⓓ)

² 中国共産党が設立した統一戦線の性質を帯びた学校。政治7分、軍事3分。1937年7月、創立を決定。現在の中国人民大学等の前身。成仿吾が陝北公学党委書記兼校長。共産党員、国民党員、農民、漢族、少数民族、紅軍、国民党支配区幹部、青年から初老まで。(以上、ⓓ) 準備された課程：中国問題、哲学、政治経済学、社会科学概論、抗日民族統一戦線、民衆運動、遊撃戦争、軍事常識、その他不定期の報告、講演等。艾思奇、何幹之らも講義。1937年9月、抗大からの転校生約200名で1、2隊を編成、10月300名が入学、3、4、5隊を編成。5隊は女性のみ。(以上「延安陝北公学的歴史功績」による)

³ 西北公学 中央党校五十五班が棗園後溝に単独で設けた学校が前身。校長は李克農。1942-1945年。維基百科(簡体字版 Wikipedia)による。ⓓには項目なし。

支部書記 王凡

班長 趙君実

小班長、党小組長 李啓明(1915-2007^㉔)ら(労農幹部)

學員の年齢 20歳前後^㉔p.69

講師 陳雲は革命の気概、李富春、孔原、徐特立、高自立、鄧傑らは白区での地下工作等を講じた^㉔p.69

「訓練班の課程は正規の学校とは異なり、教材はなく、系統的理論もなかったが、講師は豊富な非公然闘争の経験をもち、実例を結びつけて講じたので、充実感を与えた」^㉔p.70

授業内容例 康生 反トロツキー派闘争⁴

潘漢年 日本の情報機関、川島芳子の活動能力

李克農 特科時代の非合法活動、国共合作時代の合法的身分での秘密工作について

劉鼎(1902-1986^㉔) 変装術^㉔p.70

半年の訓練+一か月実習で一期終了^㉔p.70

第一期生 14/36	訓練班入り前後 ^㉔	建国後最高位 ^㉔ p.69
李啓明	1932年秘密入党、1937年9月、西北保衛局茶坊検査站站長、その後訓練班	雲南省委常務書記
鄒瑜	1938年初、広州八路軍辦事処の紹介で延安入り、党組織の手配で陝北公学入学	司法部長
艾丁		上海市公安局局長
喬蒼松		陝西高級人民法院院長
呂瓊	1937年入党、延安入り、延安社会部保安処に勤務	全国婦聯秘書長
姜鵬		北京市公安局処長
謝衡		公安部顧問
房照義		湖北高級人民檢察院院長
柯藍 1920-2006	1937年八路軍に参加、1938年延安で入党	作家
鄧濤		
楊黄林	1937年16歳で延安入りし、陝北公学で学習後、保安処に配属され、その後訓練班	
柳峰		
晏家華		
汪琦	「新華日報」記者	

二期(1939.2-11) 王林 侯良 嚴夫 杜定華 楊崗 伊里 張季平 薛光 喬莊 郝蘇(1919-1990^㉔)ら 20数人^㉔p.70

すべて男性 入学後、1か月日本語を学ぶ

卒業後、すべて日本軍占領区へ派遣されることが計画された

⁴ 「彼〔康生〕は“反トロツキー派”〔のレットル〕を政治闘争の武器として人を懲らしめた」、「彼〔康生〕は帰国後すぐに陳独秀を貶め、“トロツキー派”、“漢奸事件”を捏造した」「その後、王実味を“トロツキー派”とみなし、供述を迫るやり方で多くの冤罪事件を引き起こした」王珺「康生在中央社会部」『百年潮』2003年第5期

現地に派遣された人員は社会関係を利用して工作活動を行ったが、その際、「出身」身分が高いほうが有利な条件となった(例、地主の家の出身はむしろ「信用」を得られた) ④p.70

班主任：趙蒼璧(1939-1940、陝甘寧辺区政府保安処訓練班主任、中社部訓練班で学ぶ④)

講師の「ランク」は一期ほど高くなかったが、専門性は増した

呉改〔→漑〕之 黄埔軍校4期生 八路軍鋤奸部、後、保衛部に改称④ 密写の方法④p.70

曾希聖 黄埔軍校4期生 中共中央軍委諜報科科长④ 情報分析 無線での情報収集(国民党関係の) ④p.70

劉鼎 無線通信 周恩来とフランス留学経験 ドイツで機械技術製造を学ぶ ソ連で軍事工程設計を学ぶ
帰国後、中央ソビエト区で最初に砲弾を製造 情報発信、受信 無線基地がない場合、ハンマーで線
路を叩いて暗号を伝える方法などを教える

暗号法 依〔易〕位法 漏格法(カルダングリル)

投毒、放毒、防毒、解毒方法④p.71

〔なお、④によれば、1924年ドイツで勤工儉学、1926年モスクワ東方大学でマルクス・レーニン主義基礎理論、レニングラード機械学校で飛行機械学等の航空知識を学び、1929年帰国、上海の中共中央で働く、とある〕

実習 物売りに変装など④p.71

第二期生 9/20 数名	訓練班入り前後④	建国後最高位④p.70
王林		毛沢東行政秘書
侯良	1935年、学生抗日救亡運動に参加、1937年、中華民族解放先鋒隊に参加、1938年2月入党、陝甘寧辺区保安処偵察員、所長、隊長	新疆公安庁長 中国政法大学校長
杜定華		新疆公安庁副庁長 新華社紀検組副組長
嚴夫	1938年、陝北公学卒、1939年、抗大 ⁵ 卒、同年入党	
張季平		
楊崗	1938年5月、八路軍山東人民抗日遊撃第四支隊一団宣伝員、同年7月、八路軍山東抗日軍政幹部学校で学び、9月入党	四川公安庁長
伊里		陝西公安庁長
薛光	1936年12月、北京で党の民族解放先鋒隊に参加、1938年6月入党、10月、冀西抗日遊撃隊に参加	新疆公安庁長
喬莊		雲南公安庁長
郝蘇	1939年2月～11月、七里鋪二期情報偵察訓練班で学ぶ	中国人民解放軍軍事法院院長 総政治部保衛部長

⁵ 中国人民抗日政治軍事大学 中国共産党が軍事・政治幹部養成の目的で設立した学校。1931年、瑞金で設立された中国紅軍学校が前身。中国人民抗日紅軍大学、西北抗日紅軍大学を経て、1937年1月、中共中央機関とともに延安に移り、中国人民抗日政治軍事大学となる。学制は4か月～半年、8か月、1年、3年とまちまち、1期、2期は半年前後、8期は3年余りだった。卒業生は八路軍、新四軍の骨幹となった。(④による)

・七里鋪は、一、二期は多かったが、三期は5人、その後も少人数だった㊤p.72

◆複雑な運命をたどった訓練班出身者

一期 毛培春(1918-1948㊤) 共産党の訓練班を離れて国民党の訓練班に入った 仮名で軍統の蘭州訓練班に入り、軍統に派遣されて共産党を偵察、二重スパイとなった㊤p.71

▶毛培春 1937年延安入り 1938年、中共黨員 1938年9月、党組織から派遣され、国民革命軍前哨地区洛川で地下情報工作 国民革命軍第53師団で任職 洛川国民革命軍駐軍状況、胡宗南の辺区攻撃の時間、路線等に関する大量の信頼できる情報を党組織に提供 1948年4月、洛川一帯で敵機に掃射され死亡㊤

二期 呂璜(1920-) 1938.5、延安保安処により秘密偵察員に選ばれ、11月、延安保安処に配属、保安処第一期特訓班で学び、保安処一科に配属 〈呂璜 - 真正的女神:您永远活在我们心中〉2017

二期 閻又文(1914-1962㊤) 西北馬鴻逵部隊に入り、傅作義部隊に転ず 国民党上層部に潜入した情報工作人員となった㊤p.71

▶閻又文 1934年、山西大学法学院入学 大学期間中、中共地下黨員杜任之、張友漁らが主催する進歩的団体“中外語文学会”に参加 1938年、傅作義部隊の地下黨員潘紀文が長期間の観察を経て閻を中共地下黨員にした 1939年11月、延安七里鋪訓練班第二期修了後、中共西北局社会部により国民党西北軍閻馬鴻逵部隊に所属 機会を伺って晋軍傅作義部隊に転入 傅の下で文書秘書を担当 少将新聞処長、奮闘日報社長、華北剿匪總司令部政工処副処長 1949年1月22日、北平和平協議と傅作義の公告を正式発表 新中国成立後、水利部長傅作義辦公室主任 1961年、農業部に異動 1962年9月、病死 1997年、羅青長、真相を発表 2009年、北平和平解放の功臣として閻の肖像を展示㊤

二期 郝蘇(1919-1990㊤) 卒業を待たずに薛克明と共に馬で隴東へ行き、薛は隴東保安科秘書、郝蘇は秘密幹部となり国統区西峰鎮に潜入㊤p.71

三期 黄彬(1912-1942㊤) 卒業後、軍委二局に配属され無線傍受・送信、暗号解読技術を学び、以後機密活動に入った㊤pp.71-72

▶黄彬(黄桂元) 1930年、共青团加入 学生運動を指導、除籍 1932年、農民示威暴動を組織 1937年、武漢の八路軍辦事処に行き、その後、延安抗大で学習、正式黨員に 1938年、桐城県抗日武装部長兼第二遊撃隊大隊長 皖南事変後、新四軍五十五団副団長兼政治部主任 1942年秋、渡江任務後、帰路途中、日本艦に遭遇、死亡㊤

3. 保安処は三十里鋪訓練班〔陝北の現地幹部から選抜、養成 養成後は辺区で保安工作〕も設置㊤p.48

〔参考1〕延安から見た日本の特務工作

・「国民党政権は公然と攪乱し、日本の特務工作も機に乗じて行われた。辺区の農村に秘密組織『黒軍』が出現、都市にも天星党が現われ、秘密裡に日本軍のために情報を収集、漢奸組織を發展させた」㊤p.89

・日本の直接的スパイ：1939-1941、延安保衛機関は73件摘発 太原の日本特務機関で訓練された高子文、山西の日本特務機関で訓練された李永茂 抗大と陝公では、日本で養成されたスパイ夫婦を発見㊤p.141

・日本の間接的組織：1938-1939、日本軍が哥老会組織を買収した「探訪委員会」「地方探訪会」「防共委員会」「特務委員会」「義貫大刀会」を摘発㊤p.141

〔参考2〕「四大特務」

・銭維仁 辺区鉄路局技師 父（銭来蘇）とともに延安入り 父は元同盟会会員、国民党元老、国民党第二戦区少将参議 父親が日本との関係を疑われる 本人は自然科学院の壁新聞に“向日葵”を描き、「心が日本に向いている」のではないかと疑われる㊤p.225

・李凝 1938年、康生から、歩く姿が日本人のようだといわれたことが日本の特務と疑われる「証拠」の一つとされた㊤p.225

・王遵伋〔級、極〕 中華民国臨時政府、華北政務委員会主任・王克敏の姪 「叔父が華北一の漢奸である」、「カンテラで日本の飛行機を上海爆撃へ誘導した」、「延安で編み物を使って特務と連絡をとった」などといわれた1939年4月逮捕、1945年まで暗い洞窟に閉じ込められる㊤p.225

・張克敏（樊大畏） 甘肅の地下工作に派遣された 父（樊執一）は漢方医で、病氣治療を通して国民党高官と知り合い、国民党に入党し、特務組織に加入、自分も特務になり、延安に来たのも八路軍と共産党の軍事、政治情報をさぐるために特務機関から派遣されたものであると述べたという また、甘肅地下党は「紅旗を掲げて紅旗を打つ」国民党紅旗政策の産物であると述べたという㊤p.242-243

〔参考3〕後の時代からの既視感

「1つの政治運動では、初期には意見を出すよう呼びかけ、中期には意見の激しい者に反撃し、後期には少数の者に組織的処分を行う。このような行程は、あるいは1942年の延安整風から始まったのかもしれない。後の1957年の反右派闘争、1966年の文化大革命でも既視感がある。このような現象は“法則”の必然なのか、“操縦”のしからしむところなのか、今なお研究課題である。延安でかつて間違いなくこれを法則としたものがいた。『整風は必然的に幹部審査を行い、幹部審査は必然的に裏切り者を一掃する』という一世を風靡した結論は康生から出ている。中央総学委副主任と中社部部长を兼任していた康生は、整風と裏切り者の一掃という2つの仕事を同時に指導していた。職務の習慣によるのか、神経過敏によるのかはわからないが、康生は思想問題をしばしば政治問題に引き上げた。王実味らの定性は思想の誤りを政治の誤りに上昇させ、さらに反革命問題に定性したもので、康生が強力にこれを推し進めたことは証拠からも明らかである」㊤p.240